

チョイソコひさえだ

はじめに

高齢になっても住み慣れた町で暮らし続けるためには、松山市地域公共交通網形成計画 3.地域の現状 に記載のあるように、公共交通の利用環境の向上が必要不可欠です。私たちの住む久枝地区は、久万ノ台・問屋町・安城寺町・東長戸 1～4 丁目・西長戸町・船ヶ谷町・高木町・鴨川 3 丁目から構成される地域で、久枝地区まちづくり協議会の活動が活発です。人口はおよそ 20,000 人、うち 75 歳以上人口がおよそ 2,800 人。松山市地域公共交通網形成計画によると、人口の 52.9%が交通空白地域または交通不便地域に暮らしているとされています。

3. 地域の現状

3.2.2 まちづくりの現状と課題

項目	現状	課題
居住や都市機能施設を誘導 (誘導区域内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化の進展により、日常の移動が容易にできない人が増加してくると見込まれる。 ・ 公共交通の利用圏内であっても、人口密度の低下に伴い利用者の減少が見込まれる地域では、便数の減少や路線の廃止等のサービス低下が懸念される。 	
生活サービス施設の利便性・持続可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口密度の低下が見込まれる地域に立地する施設は、利用者の減少に伴い、施設の維持が困難になってくることが予想される。 ・ 施設の周辺地域では、各種サービスを容易に受けることができなくなることが懸念される。 	公共交通の利用環境の向上に向けた施策の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通軸の強化 ・ 路線再編の検討 ・ 利便性の向上 ・ 利用促進策の推進 ・ コミュニティ交通の導入検討
高齢者の福祉・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口が減少する地域では、公共交通の維持が困難となり、高齢者等の外出機会が低下する可能性がある。 ・ 高齢者が増加する地域で、日常生活に必要な施設が近くにない地域では、サービスの利便性が低下することが懸念される。 	

地域区分	地区	現 状	課 題 (下線は優先して対応する課題)	主な課題に 対する 解決の方向性
北部	<ul style="list-style-type: none"> ・久枝 ・潮見 ・和気 ・堀江 計 4 地区	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は減少傾向（公共交通利用者減少） ・高齢化の進展（31～36%に増加） ・JR、バス路線が通過 ・拠点地区はJR 堀江駅 ・居住誘導区域は久枝（30.6%）の面積比が大きい ・不便地域、空白地域の人口比率では久枝（52.9%）、潮見（52.7%）、堀江（44.1%）が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利用促進 ・高齢者への移動対応 ・拠点地区での鉄道、バス等との乗継ぎ ・不便地域、空白地域の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域状況に応じた公共交通の再編（不便地域、空白地域を対象）

参考：松山市地域公共交通網形成計画

5. 基本方針

久枝地区内には、松山市地域公共交通網形成計画 各地域の公共交通の現況・課題の表（上図）にあるように、高齢者が気軽に利用できる移動手段の確保や、不便地域・空白地域の状況に応じた公共交通の再編など、公共交通に関して解決すべき課題が多く存在します。私たちは、住み慣れた町で暮らし続けるためには早急に地域公共交通網を整える必要があると考え、2021年にチョイソコひさえだの運行を開始しました。

地域住民の移動の自由が保障されることによって生まれる相乗効果は計り知れません。加齢に伴い心身機能が弱っていく高齢者が自由に外出を愉しむことで、要介護状態に近づくスピードを緩やかにし、フレイルの予防や健康寿命の延伸につながる可能性があります。

そして、企業で一番重要な働き手である世代は、老親と向き合う世代でもあります。高齢者の健康寿命が延びるということは、企業で重要な働き手である世代の住民が安心して働けることにもつながると考えられます。

私たちは、移動手段の確保はあくまでも「まちづくり」の一環であり、まち全体の良い循環を生むための出発点になることを目指し活動を行っています。今後は同じ思いをもった仲間を増やしながら運営を行っていくことで、これまで以上に多くの人に「豊かな移動」をおすすめでき、まち全体の「豊かな暮らし」の実現に近づけると考えています。

1. 事前調査

チョイソコひさえだ導入前に、久枝地区住民の外出状況を把握するため、住民に対してアンケート調査を実施しました。アンケート調査の結果や図3にまとめた自由記載欄への意見から、すでに生活に必要な移動に困っている人が多くいることがわかります。また、図7で分かるようにその分布については地域差があるようです。

なお、今回のアンケート調査は、無作為ではなく特に困っていそうな50代以上の方を中心にに行った点には注意が必要です。

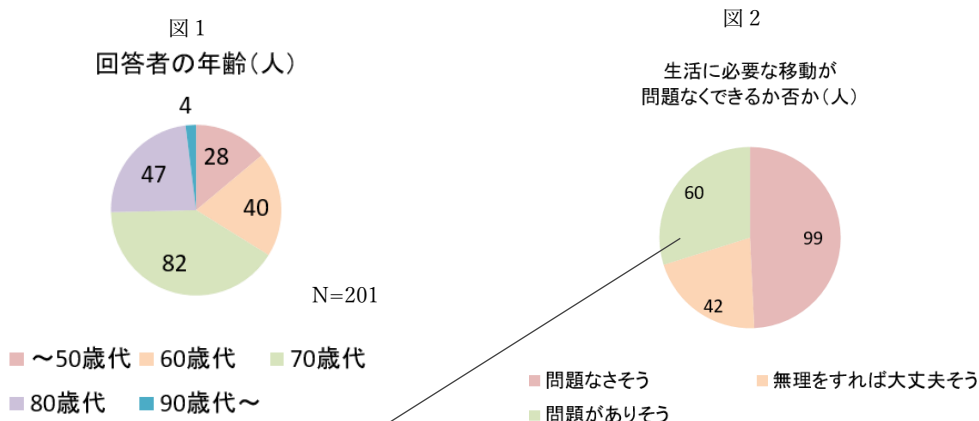


図3

視力・聴力・脚力が弱っているため／歩くのは負担が大きい／足が悪くて自転車にも乗れないため／足が悪い／買い物・病院などの移動が不便／手と足が痛く買い物は人に乗せてもらう／整形外科でのリハビリにタクシーで行くが不便／誰かに送迎を頼むと気を遣う／好きな時に好きなところに行きたい／免許証返納を考えている／高齢の母がひとりで買い物行くのが心配／バス停・駅までが遠い／移動に時間がかかるから出かけるのが億劫／お天気が悪いと出にくい／車やバイクの交通量が多いところはみんながスピードを出すから歩くのは不安

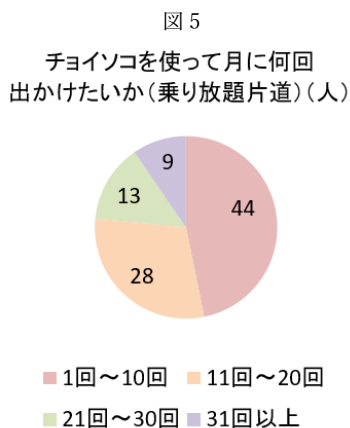
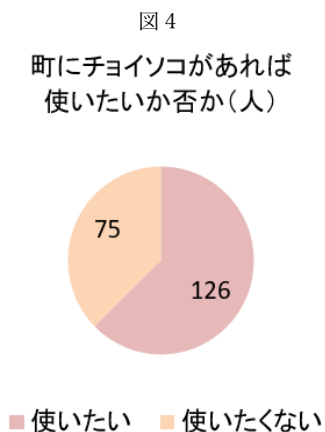


図 6

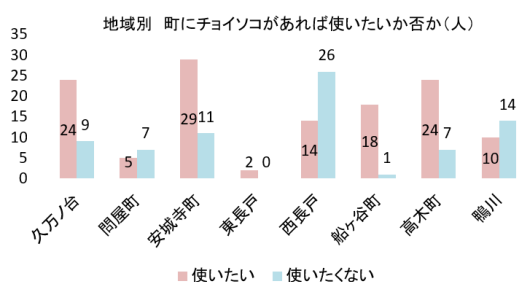
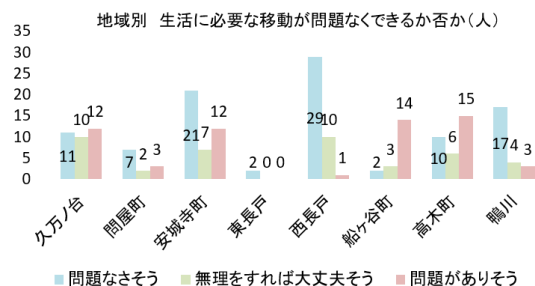


図 7



2. チョイソコひさえだの導入

2019年4月から愛知県豊明市で運行しているチョイソコとよあけの視察と地域住民へのアンケート調査から、ドアツードアで利用できるチョイソコがあれば外出頻度を高めて愉しみの時間を増やすことができると考えました。さらに収支として、久枝地区内の事業者数は1,047ヶ所、75歳以上高齢者数はおおよそ2,800人と、地域全体で少しずつ費用を負担することで久枝地区内で収支を完結させることができると判断し、チョイソコひさえだの導入を決定しました。

① 利用者

運行範囲の性質から、利用できるのは久枝地区にお住まいの方とします。また、車両の性質から、介助の必要がなく1人で乗り降りできる方とします。

② 停留所

運行範囲内に、「チョイソコひさえだ」の乗降ができる場所として、停留所を約250箇所程度設置します。停留所の場所については状況により随時見直しを行います。

③ 対象区域

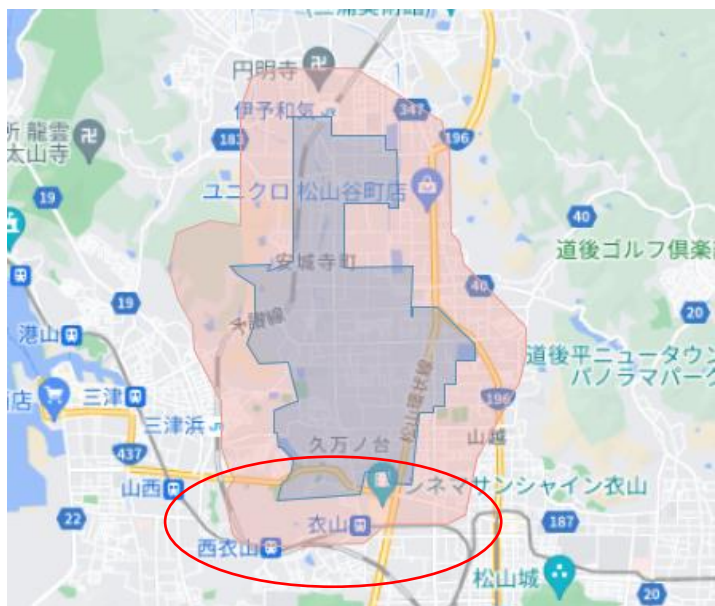
「チョイソコひさえだ」の対象区域は下図のとおりです。青色は、久枝地区の範囲。赤色は、久枝地区の周囲500mを目安とし、周辺地区(和気町・馬木町・平田町・志津川町・谷町・吉藤・姫原・山越・中央・衣山・古三津・みどりヶ丘・ひばりヶ丘・青葉台・吉野町・東山町・会津町・内浜町・桜ヶ丘・太山寺町)の一部を含めた運行範囲とします。周辺地区を運行範囲に含めることで、気軽に利用できる移動手段をもたない高齢者がおでかけしたい範囲をある程度カバーできると考えました。

図8 【現在の運行範囲】



なお、既存の交通事業者への配慮として、衣山駅周辺は運行範囲に含まれていません。市内へ行くために電車に乗り継ぎをしたいという声は多くあがっており、今後は衣山駅周辺も含めた運行範囲を実現させたいと考えています。

図9 【理想の運行範囲】



④ 運行日および運行時間

運行日は、下記を除く平日とします。

- (1) 土曜日および日曜日
- (2) 祝日
- (3) その他天候条件や災害など安全な運行に支障がある日
- (4) 年末年始・夏季休暇など運行事業者が別に定めた日

運行時間は、交通事情などによりやむを得ない場合を除き 9:00～12:00 と 13:00～16:00 の 1 日 6 時間とします。早朝や夕方以降のタクシーが稼働しやすい時間を避け、既存の交通事業者への影響が少ない時間帯に限定しています。なお、土日祝日・長期休暇を運休日とする理由も同様です。

⑤ 利用料金

1 人につき 1 ヶ月 3,500 円（消費税および地方消費税含む）の定額乗り放題制とします。

⑥ 予約のルール

利用者が「チョイソコひさえだ」を利用する場合、電話による予約が必要です。予約時には、乗降場所・希望時間などを伺います。電話以外による予約は受け付けず、また予約内容以外の乗降はできません。予約は、ネットヨタ瀬戸内株式会社モビリティ事業部で受け付けます。予約受付は 2 週間前から 30 分前までとし、予約受付時間は平日 8:30 から 15:30 までとします。

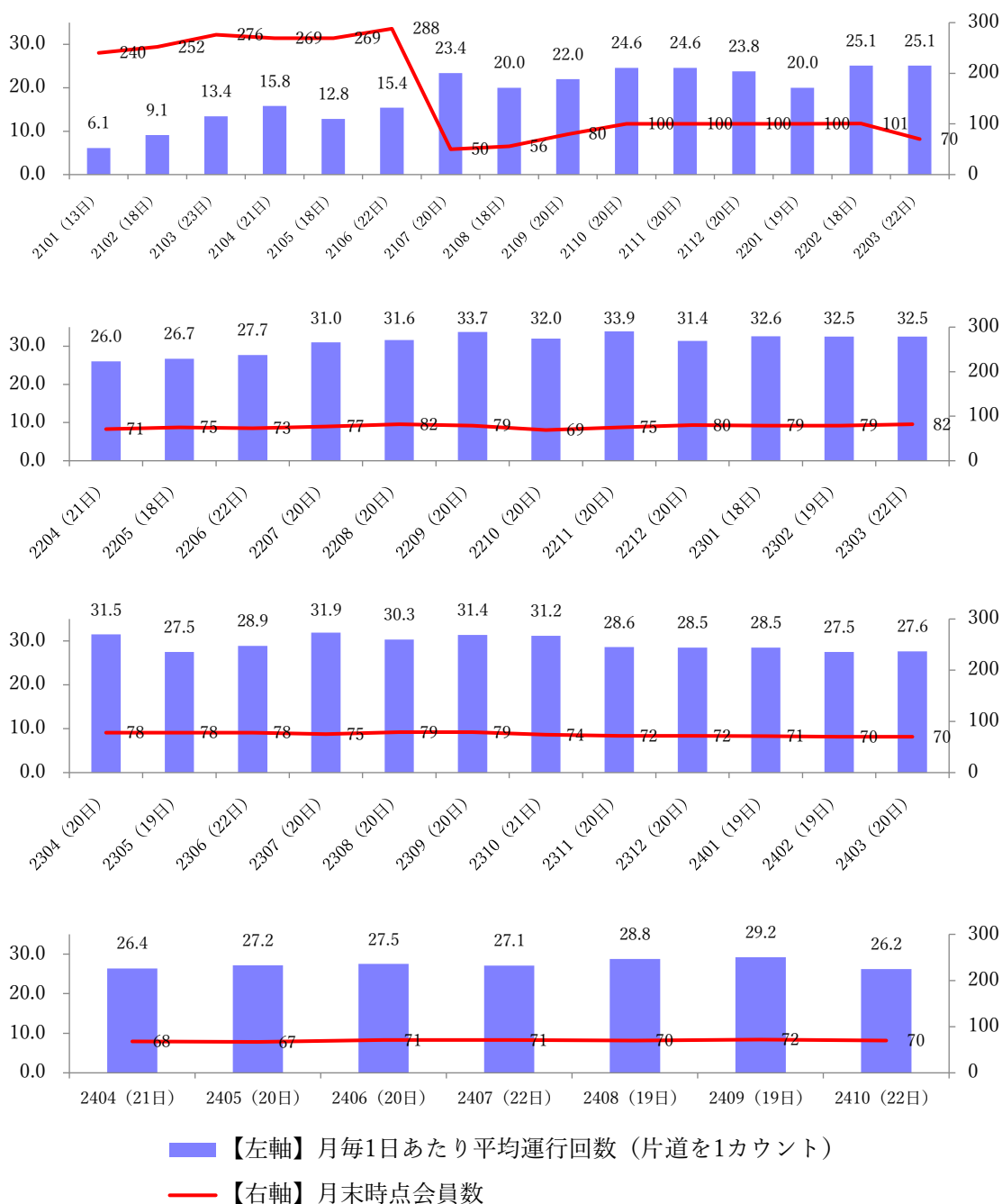
⑦ 車両

1 台目の運行事業者は、東洋タクシー株式会社とし、同社所有の車両（7 人乗りノアウェルジョイン）を使用します。住民からの要望により 2 台目以降の車両を実装する場合、東洋タクシー株式会社または久枝地区内およびその近隣のタクシー会社を運行事業者とし、車両については同様に当該運行事業者所有の車両を使用するものとします。

3. 運行状況

運行開始した 2021 年 1 月から 2024 年 10 月までの利用実績です。2021 年 1 月から 6 月までを無償の実験期間としており、有償化した 7 月に会員数が減少していますが、すぐに会員数を取り戻しています。また、2022 年 5 月には 21 条乗合から 4 条乗用での運行に切り替えました。

図 10 チョイソコひさえだ 平均運行回数と会員数の変化



4. チョイソコ導入前後の変化

チョイソコ導入後、利用している地域住民の心身にどのような変化があったのか調査を行いました。

①お出かけ回数の増加

図 11 のように、チョイソコを利用するようになってから「お出かけ回数が増えた」「人と会う回数が増えた」と回答した利用者が多くいました。内容は、通院や日常的な買い物と必

からだ元気になることで幸福感にも影響があるようです。

図 14

チョイソコを利用するようになってからの

暮らしの変化と幸福感の変化

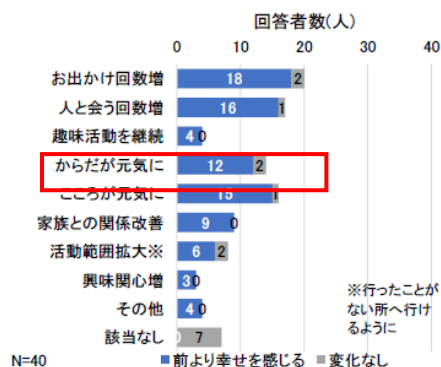


図 15

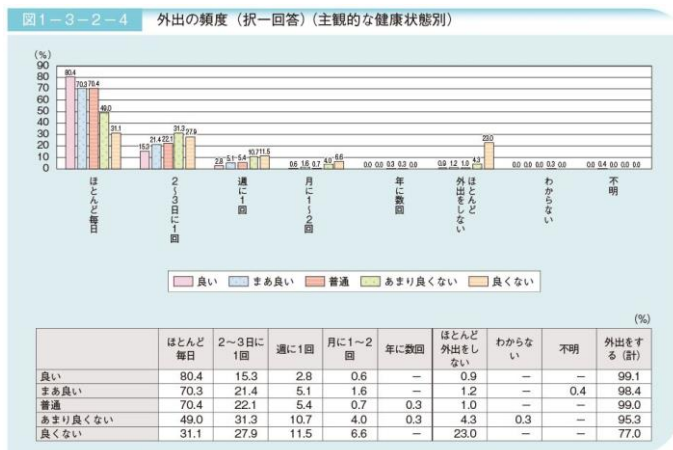
チョイソコひさえだ会員の声

通院していた病院へ、チョイソコが行って
くれる様になり、荷物も含めて1週間の生活の
リズムが、お米 非常に助かっています。
運転手の皆さんも、やさしく接していただき、
チョイソコの仲間にも色々お話し、お礼がたく
思っています。
病の専門者の皆さんの協力があってこそ、チョイソコ
運営が出来る事、感謝致します。

出所：チョイソコひさえだに関するアンケート調査 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科 准教授 西堀 泰英

なお、外出頻度が健康状態と関連していることについては既に様々な調査がされていま
す。チョイソコで自由におでかけが出来るようになることで、健康維持やフレイル予防に
繋がり、元気に歳をとれる地域に近づくのではないのでしょうか。

図 16



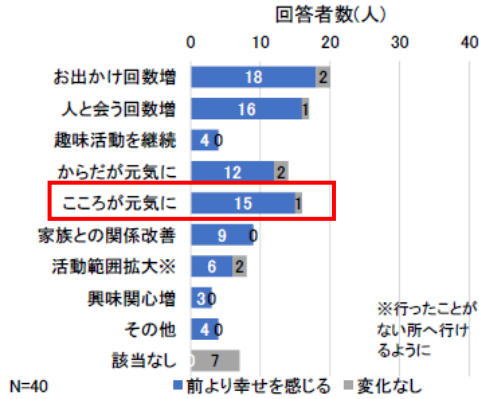
出所 内閣府 平成 30 年度版 高齢社会白書

②-2 心のフレイル

身体フレイルと同様に、チョイソコ利用前後で心の状態にも変化が見られました。
「ところが元気がなった」と回答した数は身体の変化を感じた数よりも多く (図 17)、お
でかけ先で人と会話をするのはもちろん、チョイソコ車内も交流の場のひとつになって
おり、利用者同士やドライバーとの会話を愉しんでいる方もいらっしゃるそうです。中には
「ドライブ気分を味わえるし色々な人と会えるから遠くまで相乗りしてもいい」という
利用者もおり、交流を愉しんでいる様子が伺えます。

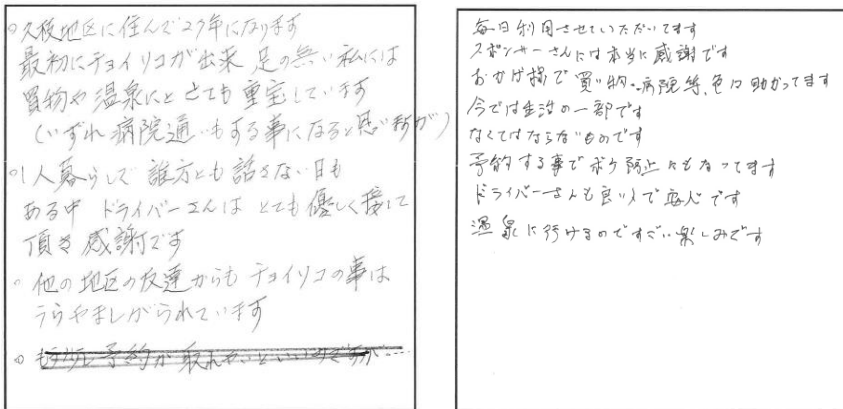
図 17

チョイソコを利用するようになってからの暮らしの変化と幸福感の変化



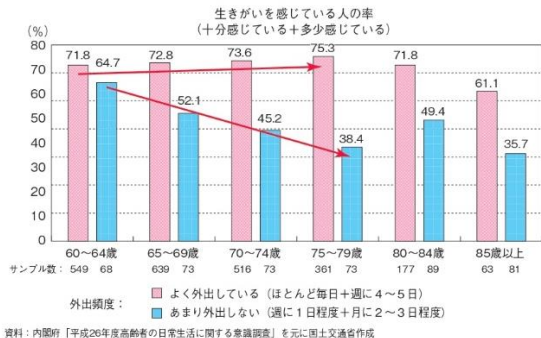
また、「自由に買い物に出かけられる」「これまで行ったことのなかった場所に行ける」といったことも、心の変化に繋がっていると考えられます。チョイソコは時間や行程を自由に決められることから、自分でスケジュールを考え、予約を取り、予約通りに行動することを求められ、これらを繰り返すことで「自分一人ですることがある」と喜びを感じる方もいるようです。

図 18



外出頻度と生きがいを感じる人の割合についても様々な調査がされています。

図 19 図表2-1-1-24 外出頻度別の生きがいの充足度合い



出所 国土交通省 令和2年度版 交通政策白書

②-3 社会的フレイル

活動を続けていると、「身体フレイル」「心フレイル」だけでなく、「社会的フレイル」にも影響を与えていることが分かりました。車内でよく顔を合わせる利用者さんは、1人が体操教室に通っているという話をしたところ、「私も行きたい」と会話が盛り上がり、二人で一緒に体操教室に通うようになりました。他にも、いつも通院時間が同じで相乗りになる利用者さん数名でお買い物に出かけるようになったりと、交流の幅が広がっています。チョイソコをきっかけとした新たな人と人のつながりが生まれ、生きがいや楽しみに繋がっているようです。

↓お花見会



↓お茶会



5. 県内外からの評価

松山市内で運行している地域主体のチョイソコのしくみは県内外を問わず多くの注目を集めており、全国各地から視察に訪れています。

○視察（一例）

- 2022年7月 愛媛県庁、今治市役所（チョイソコおのくめ）
- 2022年7月 中予地方局、大阪工業大学（チョイソコおのくめ）
- 2022年9月 和歌山大学（チョイソコおのくめ）
- 2022年10月 富山県氷見市（チョイソコおのくめ）
- 2022年10月 神奈川県横浜市（チョイソコおのくめ）
- 2023年9月 トヨタ自動車株式会社（チョイソコひさえだ）

2024年8月 京都府八幡市（チョイソコひさえだ）

2024年11月 富山県魚津市（チョイソコひさえだ、チョイソコおのくめ）



○日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）

地域主体のチョイソコのしくみは全国的にも評価されており、2022年から3年連続でJCOMM賞を受賞しています。

※JCOMM賞は、国内のモビリティ・マネジメントの実務発展と技術発展を意図して設置されたものであり、国内の様々な取り組みや研究の中でも特に優秀なものを日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）実行委員会として選定し、その実現に貢献した個人・団体を表彰するものです。

2022年 第17回日本モビリティ・マネジメント会議

JCOMM ポスター賞 代表理事賞 受賞

利用者と地元企業が支える住民参画型の持続可能な移動の仕組みが実現した秘訣とその効果 -チョイソコひさえだの実践-

◆豊富な移動で豊かな暮らしを実現する定額制送迎サービスチョイソコひさえだ

◆公金投入ゼロで運営する仕組み

◆利用者の評価は良好！しかも公金投入ゼロを達成！

◆久枝モデル実現の秘訣

◆より多くの地区での「豊かな暮らし」の実現に向けて

6. まとめ

チョイソコは「自分たちの地域は自分たちでよくしよう」という想いの基、地域主体で進んでいったプロジェクトであり、試行錯誤しながら運営をしてきました。なかなか地域の中で理解を得られなかったり、これまで馴染みのない仕組みに対する戸惑いの声を含めた様々な意見をいただいたりと歯痒い思いをしたこともあります。しかし、地域のためにと、諦めずに仲間たちと自らを奮い立たせてきました。おかげで徐々に地域に根付いていき、「チョイソコがある町 ひさえだ」として浸透してきたように思います。また先述のようにチョイソコを通して確実にお出かけ総数は増え、フレイル予防につながり、地域が元気になったと強く感じます。何より地域が主体となって本気で取り組めばこのように課題解決ができるということを身をもって体感し、勇気と自信を持つことができました。

ここまでの取り組みを通して特に感じたこと。それは、問題・課題を明確にすること。目的を明確にすること。多様な人が自分事と捉えること。この3点です。幸い、ノウハウは蓄積することができています。実際に他の地域にも似た趣旨の取り組みが拡がりつつあります。必要に応じて、このノウハウを提供する用意もあります。

私たちはこれからも、「自分たちの地域は自分たちでよくしよう」という想いの基、取り組みを進めます。この取り組みが契機となり、おでかけに関する問題を自分事として捉える人の輪が、松山市内全域に拡がることに期待しています。